

京都大学 図書館機構概要

Outline of the Kyoto University Library Network

2019

2020



京都大学

図書館機構長挨拶



京都大学図書館機構長・附属図書館長

引原 隆士

1897(明治30)年の創立以来、自由の学風の下、卓越した知の創造と継承を担ってきた京都大学において、その教育・研究活動を支えてきた京都大学附属図書館は、大学創立に遅れること2年半後1899(明治32)年に創設されました。

附属図書館は、京都大学の教育に関する基本理念である「対話を根幹とした自学自習」を支え、知的財産の蓄積や学術情報の創造を支える基盤となってきました。一方、新しい部局・教室等の設立に伴い、それぞれが独自に図書館・室を設け、部局の教育・研究に不可欠な資料を収集・提供する場を築いてきました。京都大学の図書館は、これらの集合体として機能を発展させ、現在の蔵書総数は約710万冊に達し、国立国会図書館、東京大学に次いで全国で3番目に位置する図書館となっています。さらには、国宝1点、重要文化財40点の貴重資料も所蔵しています。

2004(平成16)年の国立大学法人化に伴い組織や制度が変化し、附属図書館を含め全学の部局図書館・室は2005(平成17)年4月に設置された京都大学図書館機構のネットワーク上に配置されることになりました。紙媒体としての図書だけでなく、急速に進展する科学技術にリアルタイムで対応して教育・研究

活動を行うために不可欠な電子ジャーナル、データベース、電子書籍等を、図書館機構の調整のもと、学術インフラとして購読・利用する環境を整えています。また学びの場としての機能を見直し、より積極的な教育を指向するアクティブ・ラーニングエリアとしてラーニング・コモンズを開設するなど、世界的に大学図書館は絶え間ない変革を行っています。今後も、京都大学図書館機構は、2009(平成21)年の将来構想において明らかにしたエリア連携図書館による全学機能の分担などを検討・実施しつつ、より利用者の視点に立って教育・研究を支える運営を行い、施設の整備や環境改善を進める責務を果たしていかねばなりません。2016(平成28)年12月には、桂キャンパスに図書館を新営する概算要求計画が承認され、現在2020年春の開館を目指して準備中です。新図書館は、従来の図書館機能の枠を超え、京都大学の理工系・科学技術をコアとした、グローバル・イノベーション拠点としての機能を担うことが予定されています。

一方で現在、大学図書館は大学の学術成果を世界に発信する窓口へと変化しています。京都大学は2015(平成27)年4月に「京都大学オープンアクセス方針」を採択し、京都大学の教員が生み出した学術論文等の研究成果

を、図書館機構が運用する「京都大学学術情報リポジトリKURENAI」によってインターネット上で原則公開することを、教員の義務としました。研究成果をオープンアクセスとすることは、研究者間のコラボレーションを促進し、研究分野を超えた新たな知の創出に道を開く大きな力となると同時に、学術研究に従事する者が社会に対して果たすべき説明責任を明確にします。こうした大学の学術成果の発信を推進するため、2016(平成28)年度から「京都大学重点戦略アクションプラン(2016-2021)」の一つとして「オープンアクセス推進事業」を実施し、一次資料のデジタルアーカイブ化による人文社会科学系研究基盤の強化にも取り組んでいます。2017(平成29)年9月には「京都大学貴重資料デジタルアーカイブ」を公開して、国際的な規格IIIF(International Image Interoperability Framework)に対応した電子化画像の発信を開始し、2018(平成30)年7月には「京都大学貴重資料デジタルアーカイブ基金」を設立しました。

図書館機構は、時代の変化に応じて機能を見直しながら、京都大学にふさわしい大学図書館ネットワークの構築に向けた努力を続けていきます。皆様のご理解とご協力を心よりお願いいたします。

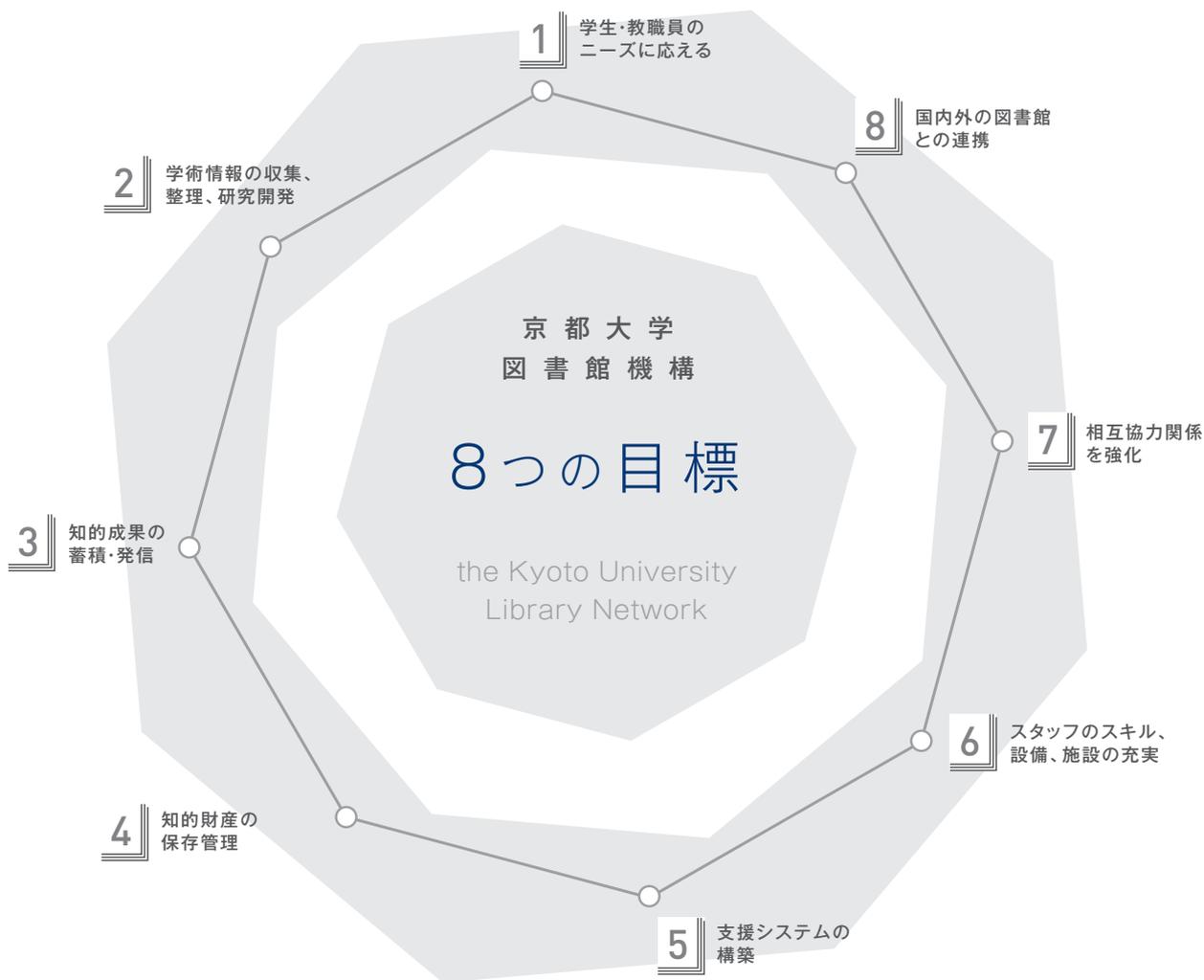
CONTENTS

- 01 図書館機構長挨拶
- 02 京都大学図書館機構の基本理念と目標
- 03 図書館機構の構成
- 04 京都大学図書館機構将来構想
- 05 附属図書館及び図書館機構の沿革
- 05 歴代図書館機構長等
- 06 全学図書館・室一覧
- 07 図書館機構の主な事業
- 15 主要コレクション



京都大学図書館機構の 基本理念と 目標

京都大学図書館機構は、京都大学の基本理念に基づき、世界最高水準の教育・研究拠点に相応しい学術情報基盤としての役割を担うことを使命とする。将来にわたって、京都大学における教育・研究活動を支援し、かつ国内外の学術コミュニティに貢献するために、人類の知的資産である学術情報資源や新たに生み出される知的成果を不断に収集、整理、保存し、関連する情報を発信するとともに、常に最上質の先進的情報サービスを研究開発し、提供する。そのため、京都大学図書館機構は以下の目標の実現をめざす。



1 学生・教職員のニーズに応える

全学の図書館機能を十全に発揮して教育・研究を支援するために、学生・教職員のニーズを把握し、それに応えることを最優先する。

2 学術情報の収集、整理、研究開発

学術情報を適切に選定、収集、整理し、必要な研究開発を行い、学術情報基盤としてのコレクションおよび情報サービス体制を構築する。

3 知的成果の蓄積・発信

京都大学が日々創造する世界的に卓越した知的成果の蓄積・発信を行う。

4 知的財産の保存管理

京都大学が保有する人類の知的資産を将来にわたって利用できるような保存管理体制を整備する。

5 支援システムの構築

学術情報活用のために質の高い利用者支援システムを構築する。

6 スタッフのスキル、設備、施設の充実

利用者が学術情報を有効、快適に活用できるように、全ての図書館スタッフのスキルおよびモチベーションの向上と、設備、施設の充実を図る。

7 相互協力関係を強化

京都大学図書館機構を構成する組織は、相互に、また関連する学内組織との間の協力関係を強化する。

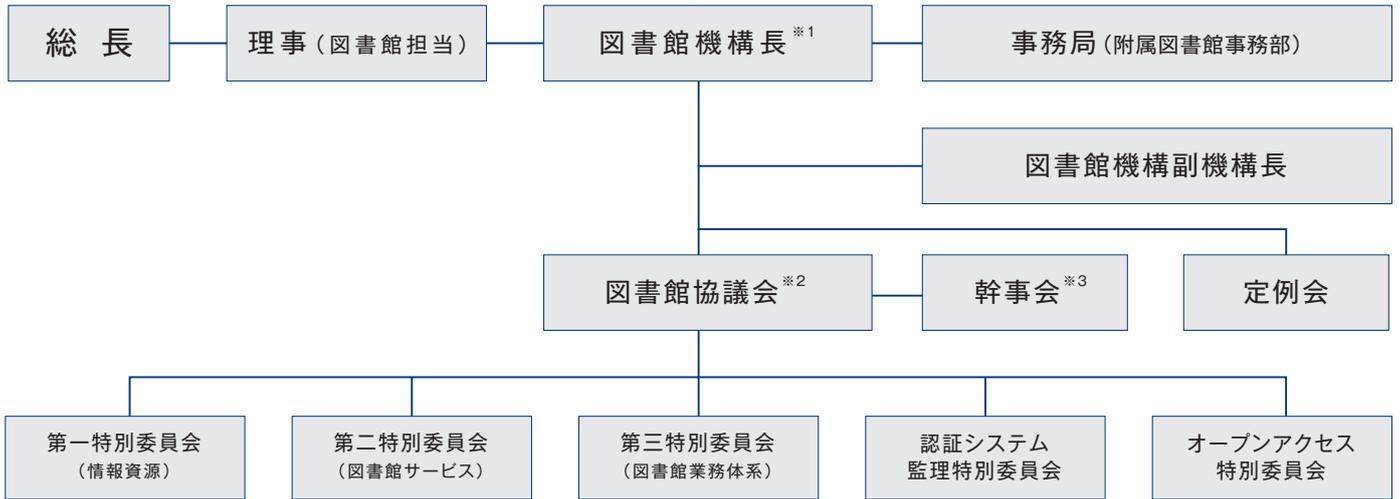
8 国内外の図書館との連携

国内外の図書館と連携し、相互協力するとともに、社会と地域に貢献する。

図書館機構の構成

京都大学には、附属図書館をはじめとして約50の図書館・室があり、それぞれの図書館・室が分野に合わせた図書や雑誌を収集・整理し、快適な学習環境の整備に努めています。京都大学図書館機構は、個々の図書館・室では解決を図れない問題や、複数の部局図書館・室間の調整が必要な課題を解決するための総合的・合理的な全学協調体制として、2005（平成17）年4月に発足しました。

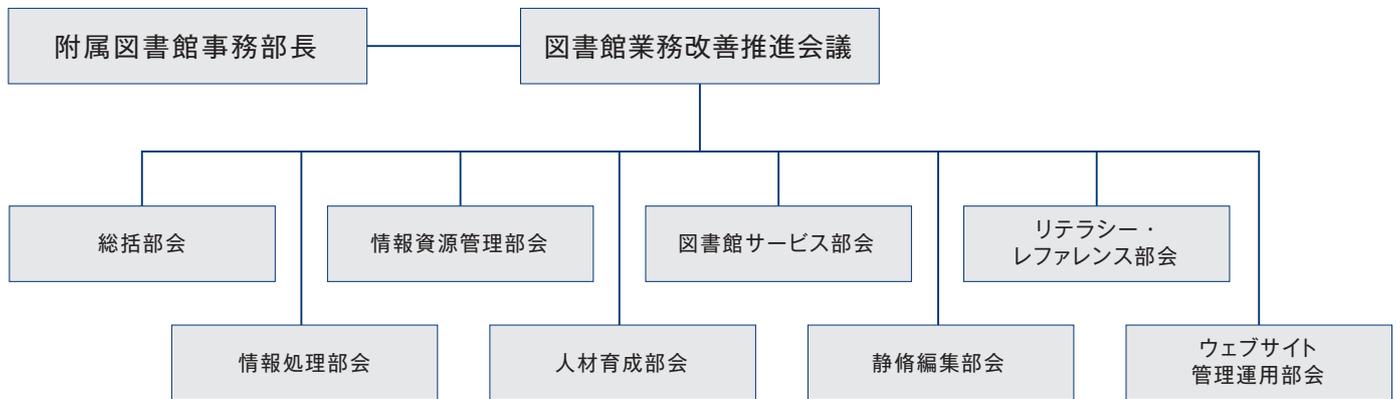
組織図



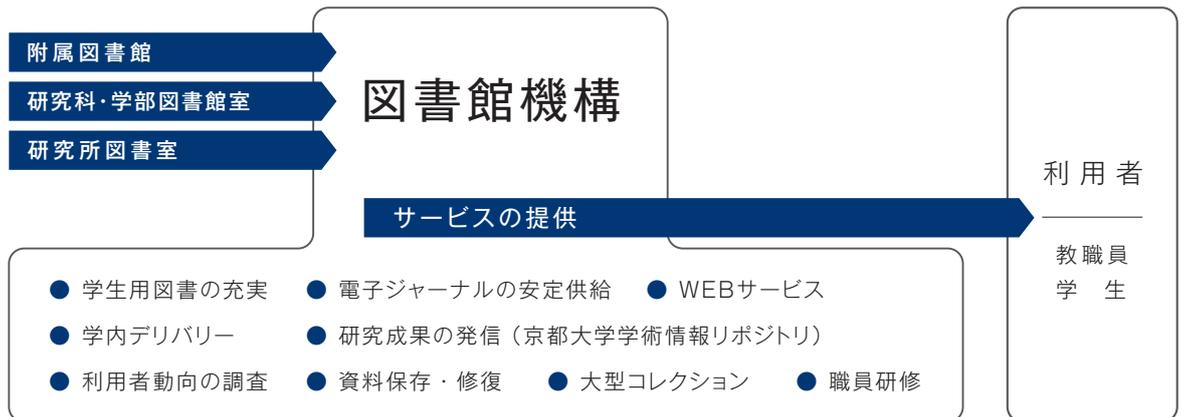
※1: 図書館機構長
附属図書館長を兼ねる

※2: 図書館協議会構成
図書館機構長（議長）、理事（図書館担当）、図書館機構副機構長、宇治分館長、部局選出の構成協議員、その他総長が認める教職員

※3: 幹事会
図書館機構長（議長）、理事（図書館担当）、図書館機構副機構長、宇治分館長、特別委員会委員長、その他機構長が必要と認める教職員



機能図





将来構想は、機構の基本理念と目標に則り、おおそ10年後の京都大学の図書館のあり方を展望し、事業目標を明らかにすることを目的に、2009(平成21)年12月に図書館協議会にて承認されました。また、2016(平成28)年2月には当初策定以降の図書館をめぐる環境変化を確認し、到達が不十分な事項と今後実現すべき課題を明確にした上で、現況に対応した構想に改定しました。

図書館機構 ネットワーク

図書館機構の役割

- 図書館機構の全学機能業務に係る企画、調整、実施
- 図書館機構に係る財源の確保、予算の管理
- 図書系職員の全学的配置の調整
- 図書系職員の人材育成
- 学内、地域、国内外との連携

全学機能の例

高度教育支援機能

初年次教育支援、専門教育支援(研究公正教育支援を含む)、情報リテラシー教育の全学調整

研究成果の発信機能

学術情報ポジトリの構築、オープンアクセス・オープンサイエンスの推進

人文学成果の活用機能

貴重資料収集管理の全学調整、電子図書館の構築、資料の修復と電子化の推進

先端科学の創造支援機能

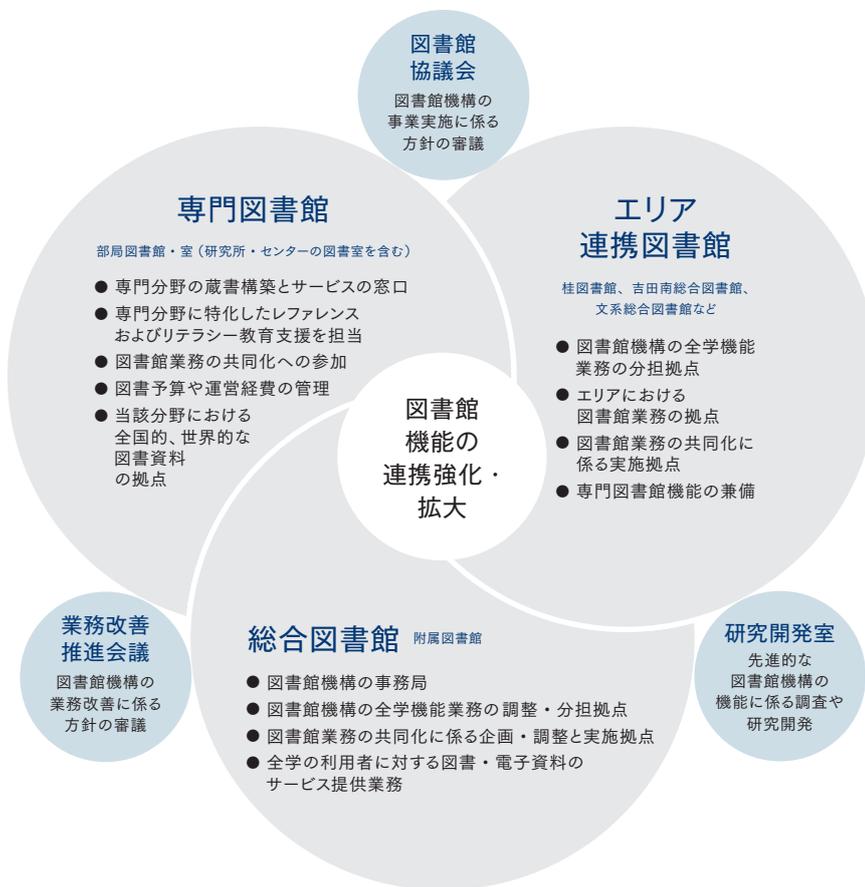
電子リソース(電子ジャーナル、データベース、電子ブック等)の提供管理の全学調整、全学雑誌センター

共同保存機能

理工系資料保存拠点(外国雑誌センター館含む)、人文社会系資料保存拠点(目録センター含む)

図書館機構事務本部機能

全学図書館事務の調整、システム管理拠点、対外調整



4つの基本目標

1. 全学図書館ネットワークの整備を図る
2. 図書系職員の力量の向上を図り、連携体制を強化する
3. 図書財源を安定的に確保し、系統的なコレクションを構築する
4. 図書館施設を量的・質的に整備する

今後4年間の事業目標(2016(平成28)年度～2019年度)

1. 学術情報資源の整備: 予算確保と蔵書構築
2. 図書館サービスの充実: 全学図書館ネットワークの整備
3. 知的成果の発信: 学術情報ポジトリの運営
4. 知的資産の保存と活用: 資料の修復・電子化の推進と保存機能の整備
5. 利用者の支援: システムによる支援と人的支援
6. 人的資源の整備: 図書系職員の育成と連携強化
7. 組織力の強化: 図書館機構の機能充実と相互協力
8. 対外活動の推進: 社会貢献と他機関との交流

第3期中期目標・中期計画

(2016(平成28)年度～2021年度)

国立大学法人京都大学 中期目標・中期計画

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/operation/medium_target/medium_target

第3期中期目標期間について大学が策定した計画に基づき、関連事業を推進します。

1. 教育プログラムの特性に応じた資料収集を行うことにより、図書館の蔵書、電子ジャーナル・データベースを充実させる。また、各キャンパスの特徴に応じた図書館の整備及び機能向上を行う。
2. 電子ジャーナル・データベースの適切な選定・収集、京都大学学術情報ポジトリKURENAIや京都大学研究資源アーカイブのコンテンツ登録・発信の推進、学術標本資料データベースの作成等により、附属図書館や総合博物館等における学術・情報資源を充実させる。



附属図書館及び 図書館機構 沿革

- 1897 明治30年 | 6月 | 京都帝国大学創立、附属図書館設置
- 1899 明治32年 | 12月 | 閲覧室開室
(11日。この日を附属図書館創立記念日とする。)
- 1908 明治41年 | 12月 | 「附属図書館商議会議程」制定
- 1947 昭和22年 | 9月 | 京都大学附属図書館と改称
- 1948 昭和23年 | 2月 | 附属図書館(第二代)竣工
- 1961 昭和36年 | 3月 | 「附属図書館60年史」刊行
- 1964 昭和39年 | 9月 | 館報『静脩』創刊
- 1983 昭和58年 | 10月 | 附属図書館(第三代：現行)竣工
- 1984 昭和59年 | 4月 | 閲覧システム導入(業務のコンピュータ化開始)
- 1985 昭和60年 | 1月 | バックナンバーセンター(BNC)開設
| 4月 | 調査研究室設置(1996年「研究開発室」に改組)
- 1987 昭和62年 | 6月 | NACSIS-CAT(目録システム)サービスに参加
附属図書館が理工系外国雑誌センター館に指定
- 1990 平成2年 | 10月 | OPAC運用開始
- 1992 平成4年 | 4月 | NACSIS-ILLサービスに参加
- 1996 平成8年 | 4月 | 研究開発室発足(調査研究室を改組)
| 6月 | 『今昔物語集(鈴鹿本)』国宝に指定
- 1998 平成10年 | 1月 | 電子図書館システム運用開始
| 4月 | 全学共通科目「情報探索入門」(提供部局：附属図書館)開始
(以後、毎年開催、科目名変更「学術情報リテラシー入門：
図書館とWeb情報の活用」(2013年から2014年)、
「大学図書館の活用と情報探索」(2015年から))
- 1999 平成11年 | 11月 | 附属図書館創立百周年記念式典
- 2000 平成12年 | 4月 | 附属図書館宇治分館発足
- 2004 平成16年 | 4月 | 京都大学図書館協議会発足
(「附属図書館協議会」を廃し、「図書館協議会」と
「附属図書館運営委員会」に機能分割)
- 2005 平成17年 | 3月 | 「京都大学における全学の図書館機能に関する規程」制定
| 4月 | 京都大学図書館機構発足
- 2006 平成18年 | 5月 | 学内デリバリー・サービス運用開始
(2007年7月から専用便へ移行)
| 6月 | 学術情報リポジトリ試験公開(10月から正式公開)
- 2007 平成19年 | 3月 | 電子ジャーナル・データベース認証システム
公開テスト開始(4月から本運用)
「京都大学図書館機構の基本理念と目標」制定
- 2008 平成20年 | 4月 | 電子ジャーナル経費の共通経費化実施
- 2009 平成21年 | 1月 | 研究開発室に専任准教授配置
附属図書館に学習室24を設置
| 6月 | キャンパス間返送サービス開始
| 12月 | 「京都大学図書館機構将来構想」策定
- 2011 平成23年 | 10月 | 「京都大学図書館機構規程」制定
(「京都大学における全学の図書館機能に関する規程」の改正)
- 2013 平成25年 | 10月 | 附属図書館に学習サポートデスク設置
文献取り寄せサービスEDDSサービス試行開始(4月から本運用)
- 2014 平成26年 | 4月 | 附属図書館にラーニング・コモンズ等設置
- 2015 平成27年 | 2月 | 附属図書館が所蔵する韓国古文獻(韓本)について大韓民国の
高麗大学校民族文化研究院および人文科学研究所と
事業協定書締結(期間：3年4ヶ月)
| 3月 | 附属図書館にてメディア・コモンズ、学習室24等改修
| 4月 | 京都大学オープンアクセス方針採択
- 2016 平成28年 | 2月 | 「京都大学図書館機構将来構想」改定
| 3月 | リポジトリ登録システム運用開始(2017年4月から本運用)
| 4月 | 附属図書館事務組織改組
重点戦略アクションプラン(2016-2021)
「オープンアクセス推進事業」の開始(期間：6年)
「富士川文庫の修復と電子化(概算要求採択事業)」開始
(期間：2年)
| 12月 | 桂図書館新営(平成29年度概算要求)が採択される
(期間：3年)
台湾国家図書館と学術交流協定を締結
International Image Interoperability Framework (IIIF)
Consortiumに参加
- 2017 平成29年 | 5月 | 吉田南総合図書館をエリア連携図書館に指定
附属図書館施設予約システム運用開始
| 9月 | 京都大学貴重資料デジタルアーカイブ試験公開(12月から正式公開)
| 10月 | 附属図書館が京都府立図書館と
「相互貸借による連携・協力の推進に係る協定書」締結
| 11月 | 研究開発室に専任助教配置
- 2018 平成30年 | 2月 | 桂図書館をエリア連携図書館に指定
| 4月 | 大学院共通科目群「学術研究のための情報リテラシー基礎」
(集中講義)実施
| 7月 | 京都大学貴重資料デジタルアーカイブ基金設置

歴代図書館機構長等

図書館機構長(附属図書館長を兼ねる)

氏名	就任～退任
初代 大西有三(工学) 大西有三(事務取扱)	2005(平成17)年 04月01日～2008(平成20)年 09月30日 2008(平成20)年 10月01日～2008(平成20)年 10月31日
第2代 藤井譲治(文学)	2008(平成20)年 11月01日～2011(平成23)年 03月31日
第3代 林 信夫(法学)	2011(平成23)年 04月01日～2012(平成24)年 09月30日
第4代 引原隆士(工学)	2012(平成24)年 10月01日～

図書館機構副機構長

氏名	就任～退任
初代 森棟公夫(経済)	2005(平成17)年 06月01日～2006(平成18)年 03月31日
第2代 岡田知弘(経済)	2006(平成18)年 04月01日～2008(平成20)年 09月30日
第3代 岡田知弘(経済)	2008(平成20)年 12月16日～2011(平成23)年 03月31日
第4代 引原隆士(工学)	2011(平成23)年 04月01日～2012(平成24)年 09月30日
第5代 寺田浩明(法学)	2012(平成24)年 10月01日～2014(平成26)年 09月30日
第6代 藤井秀樹(経済)	2014(平成26)年 10月01日～2016(平成28)年 09月30日
第7代 松井啓之(経営管理)	2016(平成28)年 11月01日～

全学図書館・室一覧

A 吉田キャンパス

本部構内

- 附属図書館
- 文学研究科図書館
- 文・学術雑誌閲覧室
- 教育学研究科・教育学部図書室
- 法学部図書室
- 経済学研究科・経済学部図書室
- 経・経済資料センター
- 工・工業化学科図書室
- 工・電気系図書室(吉田)
- 工・吉田建築系図書室
- 工・地球工学科図書室
- 工・吉田物理系図書室
- 人文科学研究科図書室
- エネルギー科学研究科図書室
- 情報学研究科図書室
- 地球環境学学堂図書室
- 環境科学センター図書資料室
- 経済研究所図書室
- アジア・アフリカ地域研究研究科アジア専攻図書室

北部構内

- 理学部中央図書室
- 理・数学教室図書室
- 理・物理学教室図書室
- 理・宇宙物理学教室図書室
- 理・地球惑星科学専攻図書室
- 理・化学図書室
- 理・生物科学図書室
- 農学研究科・農学部図書室
- 農・生物資源経済学専攻司書室
- 東アジア人文情報学研究センター図書室
- 基礎物理学研究所図書室
- 数理解析研究所図書室
- フィールド科学教育研究センター森林系図書室

吉田南構内

- 吉田南総合図書館

医学部・薬学部・病院構内

- 医学図書館 ● 医・人間健康科学系図書室(医学図書館分室)
- 薬学研究科・薬学部図書室
- アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ専攻図書室
- 東南アジア地域研究研究所図書室

B 桂キャンパス

- 工学研究科図書掛
- 工・桂建築系図書室
- 工・化学系図書室
- 工・地球系図書室
- 工・電気系図書室(桂)
- 工・桂物理系図書室

C 宇治キャンパス

- 附属図書館宇治分館

その他のキャンパス

- D** 複合原子力科学研究所図書室
- E** 霊長類研究所図書室
- F** 生態学研究センター図書室
- G** フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所図書室



図書館・室一覧

図書館・室の詳細情報、ウェブサイト、
開館日程および所在地図へのリンク集

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/newdb?typeid=3>



知的成果の蓄積・発信

京都大学学術情報リポジトリ「KURENAI」

京都大学図書館機構では、京都大学の研究・教育成果（学術雑誌掲載論文、学位論文、紀要論文、科研費報告書など）を社会に発信する「京都大学学術情報リポジトリKURENAI」を構築し、2006（平成18）年からインターネット上で公開しています。本事業を通じて、図書館機構は本学の中期計画「京都大学学術情報リポジトリKURENAIや京都大学研究資源アーカイブのコンテンツ登録・発信の推進、学術標本資料データベースの作成等により、附属図書館や総合博物館等における学術・情報資源を充実させる」のうち、図書館にかかる計画を

実現し、また本学の研究活動や研究者を広く社会にアピールしています。2013（平成25）年度からは、文部科学省「学位規則の一部を改正する省令」（2013（平成25）年3月）を受け、博士学位論文の全文データをインターネット公表することが原則となり、これまで以上に多くの論文をKURENAIでご覧いただけるようになりました。

京都大学学術情報リポジトリでは、今後も多様な研究分野の論文等を積極的に収集・発信し、より一層本学の研究成果にアクセスしやすくなるように努めていきます。

KURENAI
コンテンツ登録件数
(2018(平成30)年3月現在)

コンテンツ件数
188,699件

本文付コンテンツ件数
172,716件

※うち、学位論文要旨のみ18,271件

京都大学学術情報リポジトリ「KURENAI」
<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/>
MAIL: denjo660@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



リポジトリ登録システムの正式運用開始

2017（平成29）年4月、オープンアクセス方針の対象となる論文をKURENAIに登録申請するための「リポジトリ登録システム」の正式運用が開始され、教員がウェブサイト上で簡便に登録申請できるようになりました。

京都大学オープンアクセス方針

オープンアクセスについて

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/content0/13087>

京都大学は、2015（平成27）年4月に「京都大学オープンアクセス方針」を採択し、京都大学の教員が生み出した学術論文等の研究成果をKURENAIによりインターネット上で原則公開することを教員の義務としました。研究成果をオープンアクセスとすることは、研究者間のコラボレーションを促進し、研究分野を超えた新たな知の創出に道を開

く大きな力となり、また同時に学術研究に従事する者が社会に対して果たすべき説明責任を明確にするものと考えます。京都大学は、全学方針の採択により、大学としてオープンアクセスを推進する姿勢を明らかにし、より多くの教育・研究成果を広く公開することで、学術研究の発展に寄与するとともに、大学としての社会的責任を果たしていきます。



1. 趣旨

京都大学は、本学に在籍する教員（以下「教員」という。）によって得られた研究成果に対する学内外からの自由な閲覧を保証することにより、学術研究のさらなる発展に寄与するとともに、情報公開の推進と社会に対する説明責任を果たすために、オープンアクセスに関する方針を以下のように定めるものとする。

2. 研究成果公開の権限

京都大学は、出版社、学会、学内内部局等が発行した学術雑誌（図書等を除く）に掲載された教員の研究成果（以下「研究成果」という。）を、京都大学学術情報リポジトリ（以下「リポジトリ」という。）によって公開する。ただし、研究成果の著作権は京都大学には移転しない。

3. 適用の例外

著作権等の理由でリポジトリによる公開が不適切であるとの申し出が教員からあった場合、京都大学は当該研究成果を公開しない。

4. 適用の不遡及

本方針施行以前に出版された研究成果や、本方針施行以前に本方針と相反する契約を締結した研究成果には、本方針は適用されない。

5. 電子データの提出とリポジトリへの登録

研究成果の発行版がリポジトリでも公開可能である場合、京都大学は当該発行版をリポジトリに登録することができる。発行版の公開は禁じているが著者版の公開を許している場合、研究成果の公開に同意した教員は、著者最終稿等を、できるだけすみやかに京都大学へ提出する。リポジトリへの登録・公開、公開後のデータ利用等、リポジトリに関わる事項は、「京都大学学術情報リポジトリ運用指針」に基づき取り扱う。

6. その他

本方針に定めるもののほか、オープンアクセスに関し必要な事項は、関係者間で協議して定める。

京都大学重点戦略アクションプラン「オープンアクセス推進事業」

京都大学の改革と将来構想（WINDOW構想）

<http://www.kyoto-u.ac.jp/window/>

京都大学は、「京都大学の改革と将来構想（WINDOW構想）」を実現するため、第3期中期目標期間中に戦略的・重点的に実施する事業として、「京都大学重点戦略アクションプラン（2016-2021）」を策定しました。この中の事業のひとつ「オープンアクセス推進事業」は、前述の「京都大学オープンアクセス方針」をより実質的なものとするための事業です。この事業では、研究成果及び保有する一次資料のオープンアクセスを推進し、研究支援機能の向上を図るため、次の取り組みを進めます。

- (1) 学術論文等の研究成果公開の推進と世界的展開
- (2) 貴重資料等の一次資料の電子化と公開
- (3) 国内外の調査を踏まえたオープンアクセスや研究データに関する研究
- (4) データキュレーターとしての図書館職員の育成
- (5) オープンアクセスや研究公正に関する情報リテラシー教育活動

この事業により、学術論文をはじめとした多様な研究情報を世界に発信することは、WINDOW構想における研究の国際化推進、イノベーションの創出に寄与するものです。



貴重資料の修復

京都大学では、国指定の国宝・重要文化財をはじめ多くの貴重な古典籍・古文書等を所蔵しています。これらの中には、長い年月と利用を経て、虫損や劣化が著しい資料も少なくありません。こうした傷みの深刻な資料について、教育・研究資料として活用に耐える状態にすることを目的に、緊急性の高いものから順に計画的に修復事業を行っています。2017（平成29）年度には、「貴重資料修復計画」第2期第2年次事業として、以下の資料の修復を行いました。



鳩摩羅什奉詔訳『妙法蓮華経 [巻第6,7]』（貞和5奥書）

附属図書館

鳩摩羅什奉詔訳『妙法蓮華経 [巻第6,7]』（貞和5奥書）一軸 他8冊

法学研究科

Sir Josia "A new discourse of trade : wherein is recommended several weighty points relating to companies of merchants, the act of navigation, naturalization of strangers, and our woollen manufactures, the balance of trade, and the nature of plantation." (1698) 他21冊

経済学研究科

Herman Hugo "Pia desideria tribus tomis comprehensa. I. Gemitus animae poenitentis. II. Vita animae sanctae. III. Suspiria animae amantis." (1709) 他2冊

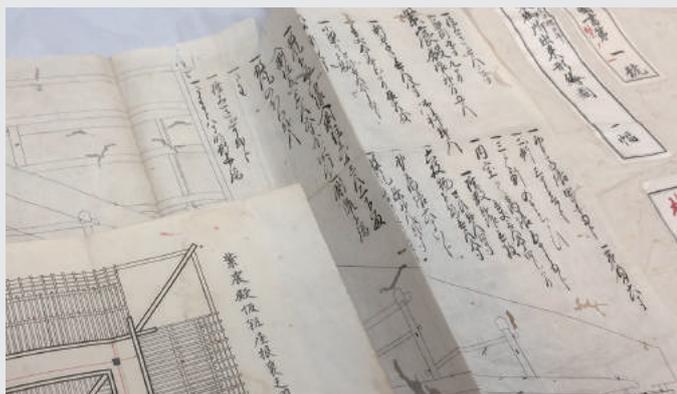
理学研究科

吉田光由『塵劫記』（寛永八年板 三卷四十八条本上・中巻）他4冊

人文科学研究所

Charles A. Bourdot de Richebourg "Nouveau coutumier general, ou, Corps des coutumes generales et particulieres de France, et des provinces connues sous le nom des Gaules : exactement verifiées sur les originaux conservez au Greffe du Parlement de Paris, & des autres cours du royaume. -- t. 1 - t. 4." (1724) 他4冊

京都大学貴重資料デジタルアーカイブ基金



長い年月を経てもろくなった古典籍資料の修復・電子化・公開には、大変な手間と費用が必要になるため、まだまだ多くの貴重な資料が書庫の中で眠っています。

京都大学図書館機構では、京都大学が所蔵する古典籍資料の修復・電子化・公開を進めるため、2018（平成30）年7月に「京都大学貴重資料デジタルアーカイブ基金」を設置しました。いただいたご寄付は、古典籍資料を修復してデジタル撮影し、「京都大学貴重資料デジタルアーカイブ」でインターネット公開するために使わせていただきます。また、寄付者には御礼として、図書館機構オリジナルグッズや附属図書館利用証等をご用意しています。

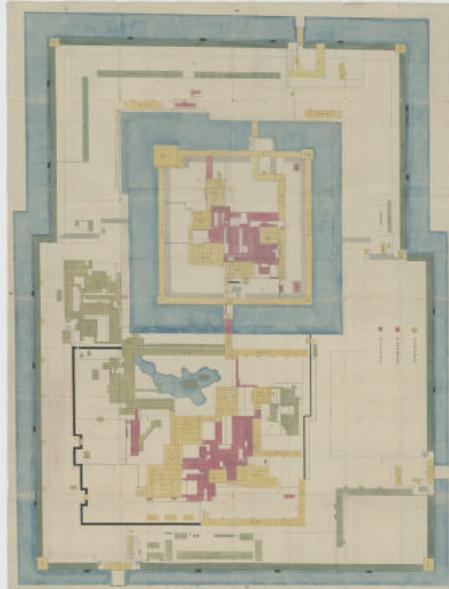
貴重資料の電子化と公開

京都大学貴重資料デジタルアーカイブ
<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

古典籍にしろされた情報をより広く共有するための手段として、図書館機構では資料の電子化・公開を進めてきました。これまでに電子化した資料は約1万点に及び、国内でも有数の規模を誇ります。2017（平成29）年度は約3,400点を電子化し、「京都大学貴重資料デジタルアーカイブ」で公開し、附属図書館所蔵資料については画像の二次利用を自由化しました。

「京都大学貴重資料デジタルアーカイブ」は、2017（平成29）年9月にサービスを開始した新しい画像公開システムで、高解像度の画像をスムーズに閲覧できるビューワーを備え、画像データの相互運用性とアクセス性を向上させる国際規格IIIF（International Image Interoperability Framework）にも対応しています。この規格の特性を活かし、2018（平成30）年9月には、「富士川文庫デジタル連携プロジェクト」（デジタル富士川）として、本学と慶應義塾大学が所蔵する資料を仮想統合して、検索・閲覧できるウェブサイトを開発しました。

今後も、コンテンツのさらなる充実とアクセス性の高いデータ公開方法の実装を進め、電子化画像の利活用を促進していきます。



『二条御城中絵図』（中井家絵図・書類）



『1623年、李彦孝招辞』（河合文庫）

2017（平成29）年度 電子化資料

附属図書館所蔵

- 富士川文庫他医学分野資料（2,839点、302,843コマ）
 - 中井家絵図・書類（249点、650コマ）
 - 河合文庫（113点、17,053コマ）
 - その他（184点、21,402コマ）
- 部局所蔵資料（28点、12,303コマ）

京都大学貴重資料デジタルアーカイブ基金
<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/about/1378633>

今後電子化を進める資料（一部）

谷村文庫

藤本ビルブローカー銀行（現大和証券）取締役会長などを歴任した実業家、谷村一太郎氏（1871-1936）旧蔵の和漢の稀覯書。

中井家絵図・書類

江戸幕府京都大工頭の中井家に伝来した京都御所、二条城、寺社等の建築図面や地図等のコレクション。

蔵経書院文庫

京都蔵経書院が書籍刊行の際に底本として収集した、仏教聖典の総集である大蔵経を研究するうえで重要な資料群。



利用者支援

学習支援のための施設・設備

全学の図書館・室では、京都大学の教育に関する基本理念「対話を根幹とした自学自習」と共鳴する、グループワーク等のアクティブな学習を支援するためのスペースほか、多様な学習の形態や学びのスタイルに合わせたスペースを提供しています。

図書館	施設	利用対象者	利用可能人数	特色
附属図書館 <small>※いずれも休館日は閉室</small> MAIL w3adm1_660@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp TEL 075-753-2632	ラーニング・commons	学内所属者	100名程度	会話可能
	学習室24		140名まで ●自習スペース99席 ●なごみ41席	月-木：10～翌朝9時 金・祝前日：10-22時 土日祝：10-19時
	サイレントエリア		146名まで	PC、電卓など音の出る機器も使用不可
	メディア・commons		45名まで ※シアター 13席含む	音楽や映画鑑賞、語学学習など可能
	共同研究室		4～20名程度×5室	会話可能
	研究個室	本学大学院生・教職員	1名×14室	
吉田南総合図書館 MAIL eturan61@mail.adm.kyoto-u.ac.jp TEL 075-753-6525	環on	学内所属者	40名程度 ※グループ学習室(吉田南構内関係部局所属者:8名程度)を含む	会話可能
医学図書館 MAIL medlib@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp TEL 075-753-4323	グループ学習室	医学部及び関係部局所属者	8～12名程度×3室	会話可能
	小閲覧室		4名程度×2室	
	セミナー室		24名まで	

ラーニング・commons 附属図書館

「対話」に主眼をおいた施設で、組換自由な机や移動式のホワイトボード、プロジェクター、電子黒板等を備えており、充実した学習支援機能を持ちます。空間全体のデザイン、什器選定からサイン制作までの全ての段階において、本学学生、教員、および附属図書館職員など多様な人々が集い、相互の知識や経験、知恵や感性等を持ち寄りて協働することにより、設計されました。まさにこの空間のコンセプトである「集い」と「創発」により実現されたものであり、本学のシンボルであるクスノキをモチーフとする木造物を配した個性的な学習空間として、2014(平成26)年4月に開室しました。学生グループの議論や意見交換の場として活発に利用されており、主体的・能動的な学習を促す多様な学習の場となり、大学における教育支援の新たな役割を担うようになっていきます。



学習室24 及びメディア・commons

附属図書館

利用環境の整備と学習支援機能の強化を図るため、2014(平成26)年度に学習室24及びメディア・commons等の施設・設備をリニューアルしました。空間デザインや什器選定等に際しては、附属図書館の教職員と工学研究科建築学専攻・工学部建築学科の学生及びデザインスクールの教員が協力して取り組みました。

学習室24

学習スペースの空間全体の快適性を向上させ、机等の利便性も高めました。また、リラックススペースには、組換可能な机を新たに設置し、多様な利用形態に対応しています。



メディア・commons

利用人数に応じたゾーニングがなされており、各種メディアを活用したアクティブな学習空間となっています。ネットワーク配信型コンテンツに対応するためのPCも設置、映画、ドキュメンタリー、語学学習等の映像コンテンツを拡充しています。廊下側に一連の木製造作棚を設置し、CD/DVD/BDを一体的に配架することで、メディア利用空間としての性格を明確にしました。併設するメディア・シアターにはレコードやカセットテープの再生装置も設置し、アナログ・デジタルを問わず、多様なコンテンツの利用が可能です。



施設予約

附属図書館では2017(平成29)年5月から施設予約システムを導入し、オンラインで共同研究室・研究個室・メディアシアターの予約ができるようになりました。



学術情報リテラシー教育支援



全学体制での利用者支援

2011（平成23）年度に「図書館機構による学術情報リテラシー教育支援の方針」が定められました。この方針に基づいて全学的なリテラシー教育支援を行うため、各図書館・室の協力連携体制を整備しています。新入生向けにはオリエンテーションや利用ガイダンス、図書館ツアー等、さらに進んだ内容としては、KULINEや各種データベースの使い方、文献収集法などの講習会を行っています。また、教員からの依頼により、授業の時間を使って図書館についての講習会を行うなど、必修科目の1コマを担当している学部・大学院もあります。京都大学で契約・購入しているデータベースの講習会は、複数のキャンパスでの同時開催、附属図書館と部局図書館との共同開催など、分野によって関係するキャンパス・学部と連携して開催しているのが特徴です。

全学共通科目「大学図書館の活用と情報探索」（2単位）



図書館機構が学術情報リテラシー教育の一環として提供する正規の授業科目です。1998（平成10）年に当時の長尾眞総長と附属図書館の発案により「情報探索入門」として開講されて以来、履修した学生からの高い評価を受けて、継続して実施してきました。図書館機構長による講義に始まり、情報学研究科、人間・環境学研究科、薬学研究科、附属図書館研究開発室といった、所属や専門分野の異なる教員等がリレー形式で講義を担当します。パソコンによる検索や、実際に図書館資料を利用する演習も組み合わせた構成となっており、担当教員との連携の下、若手を中心とする図書館職員が演習問題の作成や実習のサポートをしています。学生の情報活用能力がますます求められている中、情報環境の変化や大学教育におけるニーズに応じて、授業を提供しています。

大学院共通科目 「学術研究のための情報リテラシー基礎」 (0.5単位)

2018（平成30）年から開始した大学院共通科目において、国際高等教育院ならびに学術メディアセンター、附属図書館研究開発室の教員らがチームで提供している科目です。効果的な学術文献の探索・収集・活用手法、研究に関わるマナー、コンピューターやネットワークを活用するための技術やセキュリティ、情報倫理など、大学院生として不可欠な、研究に関するスキルを幅広く学ぶことができる授業となっています。

国際化・多様化する学生への支援

学習サポートデスク

附属図書館

2013（平成25）年10月に、附属図書館内に学習サポートデスクを開設し、多様化する学生のニーズに応える学習支援を行っています。スタッフは留学生を含む京都大学の大学院生で、日本語・英語に加え他の言語でも対応しています。日本語を母国語としない留学生向けには英語等で図書や論文の探し方を説明して、円滑な学習・研究活動を手助けするほかに、図書館ツアーを行うなどして、書庫を含めた図書館の使い方全般を案内しています。また日本人学生にも、レポートやプレゼンテーション資料に関してアドバイスを行うなど、身近な先輩として相談に乗っています。



自学自習環境向上のための整備

図書館開館時間の拡大事業

2015（平成27）年度に実施した機構アンケート結果から、利用者の要望に応える事業として開始しました。学部を有する部局の図書館・室、及び吉田南総合図書館、附属図書館の開館時間延長に対して人件費を補助し、今後の拡大のためのインセンティブ提供を目的としています。2018（平成30）年度現在8館・室がのべ151日の開館時間拡大を行っています。本事業の実績に基づき、月末休館日を廃止したり、独自財源でさらなる開館時間拡大を行ったりする部局もあり、大きな効果を上げています。

コレクションの構築

電子ジャーナルの安定供給

電子ジャーナルは、紙媒体の学術雑誌にかわり、今や研究のライフラインとして必要不可欠な情報源になっています。全学で利用できる電子ジャーナル（外国雑誌）は、2018（平成30）年4月現在、有料のもので約41,000タイトルに上っています。無料公開のオープンアクセスジャーナルを含めて、京都大学で利用可能な電子ジャーナル全点のリストをホームページに掲載し、有効な活用を図っています。電子ジャーナルに対する需要は今後も増大することが見込まれますが、購読料は年々上昇しており、必要な経費の確保が課題となっています。図書館機構では他大学の図書館と協力しつつ状況改善に向けて努力しています。



電子ジャーナルタイトルリスト
<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/erdb/13502>



問い合わせ
<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/form/14106>

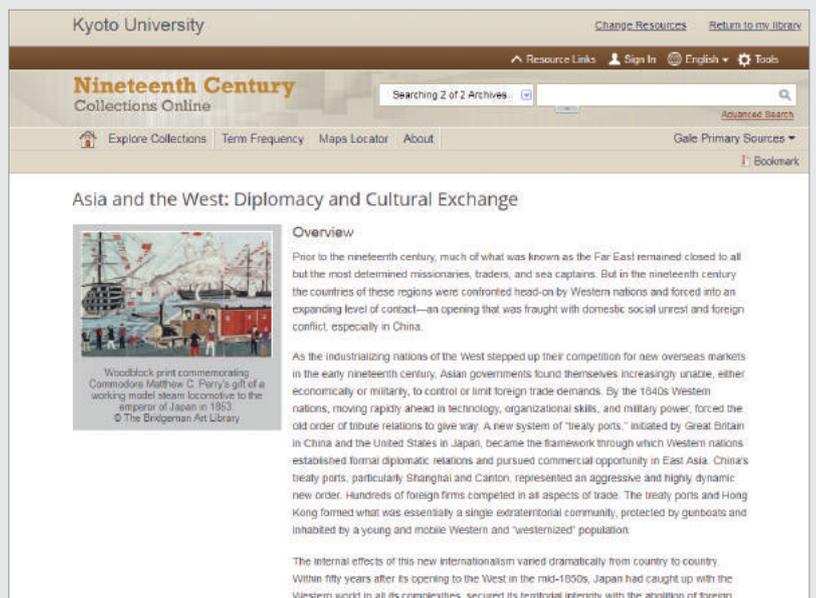


大型コレクションの整備

大型コレクションの整備は、部局単独で購入することが困難で、かつ学内外の共同利用にふさわしい資料を収集することを目的に、図書館機構が各部局の購入希望を調査し、基盤強化経費（全学機構運営基盤経費）の配分を受けて行っている事業です。本事業は、2002（平成14）年度まで文部科学省が行っていた事業を、その内容の重要性に鑑み、本学独自に継続しているものです。

2017（平成29）年度 購入資料

- マイクロフィルム『横濱正金銀行資料。第1期補遺、第2期（第1集）、第3期、第4期、第5期（第3～6集）、第11期』（経済学研究所蔵）
- オンラインデータベース『Nineteenth Century Collections Online (NCCO)（19世紀史料コレクションオンライン版）』
 Archive 2: Asia and the West: Diplomacy and Cultural Exchange（アジアと西洋：外交と文化交流）。
 Archive 11: Mapping the World: Maps and Travel Literature（世界地図の時代：地図と紀行文学）



Asia and the West: Diplomacy and Cultural Exchange（アジアと西洋：外交と文化交流）

大型コレクションリスト
<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/collections/12557>



エリア連携図書館と桂図書館（仮称）の建設

エリア連携図書館

図書館機構は、2016（平成28）年2月に「京都大学図書館機構将来構想」を改定し、全学の図書館ネットワークを整備するため、全学の図書館・室の機能を「総合図書館」、「専門図書館」、「エリア連携図書館」の三つに区分しました。このうち、「エリア連携図書館」は、複数の図書館・室における専門図書館の業務（利用者サービス、蔵書構築、資料整理、施設利用、保存機能等）を共同化するとともに、分野の特長を活かして全学図書館機能（本学図書館全体に関わる業務の体制を

構築し調整を行う機能）を分担します。2018（平成30）年10月現在、吉田南総合図書館及び桂図書館（仮称）がエリア連携図書館として承認されています。業務の共同化や全学図書館機能を分担する「エリア連携図書館」の役割は、今後、全学図書館機能の連携体制を強化し、全体として効率的で機能的な図書館ネットワークを形成する上で、重要なものになっています。

吉田南総合図書館

吉田南総合図書館は、2014（平成26）年4月から、吉田南構内5部局（大学院人間・環境学研究所、大学院総合生存学館、高等教育研究開発推進センター、国際高等教育院及び物質—細胞統合システム拠点（2017（平成29）年4月以降は高等研究院）が共同で運営しており、上記吉田南構内5部局の部局図書館機能並びに総合人間学部にも所属する学生および教養・共通教育にかかわる学生を対象とする学習図書館の機能と役割を担う「吉田南構内（キャンパス）の拠点図書館」と位置づけられています。吉田南総合図書館は以前から「吉田南構内の拠点図書館」として、「全学図書館機能」の一つである初年次教育支援および情報リテラシー教育支援を実施してきましたが、「エリア連携図書館」承認後も、これまでどおり附属図書館と分担して実施する予定です。また「複数の部局における図書業務」の共同化をおこなっており、吉田南構内5部局所属の教員や学生等を対象として、利用者サービス、蔵書構築、資料整理、施設利用、資料保存機能を提供しています。これらの他にも今後「エリア連携図書館」としての役割を果たしていくため、施設整備等を検討しています。



桂図書館（仮称）

2003（平成15）年10月の桂キャンパス開学以来、桂キャンパスでは工学研究科の5つの図書室が運営されていますが、2017（平成29）年度に、これら5図書室を集約し、かつ全学的機能をもつエリア連携図書館として新たな図書館を建設することが決定しました。建設場所はキャンパス中央に位置するBクラスター内で、京都市内を一望できる立地となっています。現在、2020年春の開館を目指して準備中です。この桂図書館（仮称）では、桂キャンパス所属者のほとんどが大学院生や研究者であることから、研究支援サービスに重点をおくことを検討しています。施設・設備面では、研究室的空間とは異なる多様なファシリティによって、学生の知的活動を促すとともに学外研究者との協働を促進することを目的としてオープンラボ、

リサーチcommonsや、メディアクリエーションルームという「場」を提供し、人的サービスでは、ライティング支援、オープンアクセス支援、アーカイブ支援など、研究を進め、発表し、蓄積するという研究活動サイクルの各場面で必要とされる支援サービスを推進する予定です。桂図書館（仮称）の開館までの情報は、図書館機構のウェブサイトにて随時お伝えしています。



吉田南総合図書館
<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/>



桂キャンパスの図書館建設について
<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/about/1375269>

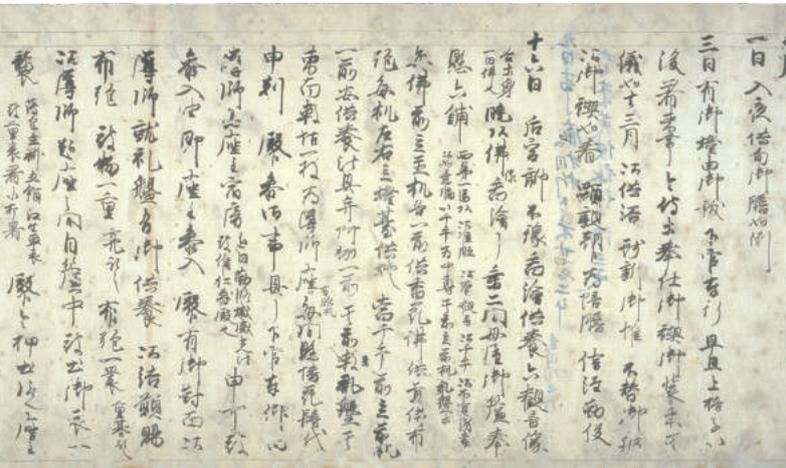
主要 コレクション

Collection

〈附属図書館〉



01



03



04



06



07

01. 国宝『今昔物語集』（鈴鹿本）/ 02. 『天正遣欧使節肖像画』/ 03. 重要文化財『兵範記 25巻』（信範自筆本・十九軸、古写本・六軸）/ 04. 『維新特別資料文庫』『火洗布』/ 05. 『維新特別資料文庫』『都風流トコトヤレぶし』/ 06. 『しほやきぶんしょう 3巻』/ 07. 『谷村文庫』『古瓦譜』/ 08. 『フランス建築・地誌資料コレクション』『Nouvelle description de la ville de Paris : et de tout ce qu'elle contient de plus remarquable』（『パリ市新業内記』）

国 宝

『今昔物語集』(鈴鹿本) 巻2, 5, 7, 9, 10, 12, 17, 27, 29 計9冊 平安末鎌倉初期写

重要文化財

『萬葉集』(尼崎本) 巻16 1帖 平安末鎌倉初期写 紙本墨書

『古今集注』 巻1-15, 17(欠巻16, 17末-20) 2帖 藤原教長撰 仁治2年鎌倉中期伝 二条師忠筆 紙本墨書

『兵範記』 長承元年-承安元年 49軸 兵部卿平信範記 紙本墨書

『範國記』 天承2年 春記 1軸 平知信記 紙本墨書

『知信記』 長元9年 春秋冬記 1軸 平範國記 紙本墨書

『幼学指南鈔』 巻7, 22 2帖 平安末期写 紙本墨書

清原家家学書 34種 紙本墨書

一般貴重書

『天正遣欧使節肖像画』、『国女歌舞伎絵詞』、『しほやきぶんしょう 3巻』など

特殊文庫

維新特別資料文庫 吉田松陰の遺墨を中心とし、『奇兵隊日記』や大久保通自筆『三藩盟約書草案』、平野国臣のこりよ文字など、幕末から明治維新の動皇志士達に関する多数の資料。

大塚家都図コレクション 大塚隆収集による江戸期から近代に至る京都に関する地図の体系的コレクション470余枚。現存する本邦最古の京都市街地図『都記』(通称『寛永平安町古圖』)を含む。

河合文庫 793部(2,160冊)の朝鮮文書類と典籍。文学博士河合弘民が朝鮮史の研究に資するために収集した蔵書。

菊亭文庫 菊亭家記・特に家業の音楽書を主軸として有職故実に関する文書・記録。西園寺実兼の四男兼季を遠祖とする菊亭家相伝の文書・典籍。

旭江文庫 大賀寿吉旧蔵のダンテに関する原典や新聞、雑誌の断簡3,000冊の集書。

近衛文庫 陽明文庫の設立時に、近衛家から3,150冊の典籍が本学に寄贈。漢籍の他、宇津保物語、落窪物語、大鏡等の古写本。

島田文庫 明治時代の仏教学者島田蕃根が島田家伝世の文書記録に、蕃根自身の収書を加えた、図書480点よりなる修験道文献の特異な集成。

蔵経書院文庫 京都蔵経書院の旧蔵本。明治38年4月より大正元年にわたって蔵経書院が刊行した『大日本續藏經』の底本となった仏典類と真宗関係の仏書。

新聞文庫 元大阪新聞記者中神利人旧蔵の、幕末から第二次世界大戦の初期に至る我が国の諸新聞とその類縁資料。

清家文庫 明経道清原家に伝わった経書ならびに日記・秘伝を中心とした収書。清原家家学書34種は重要文化財指定。うち、『孝子傳』は本館設立60周年記念事業の一つとして複製し、広く紹介。

谷村文庫 大正・昭和期の実業家谷村一太郎旧蔵の和漢書9,200冊の稀書。新村出博士の縁で本学に寄贈され、『光明皇后願經』『伝栢武天皇写経』など多彩な資料を含む。

陶庵文庫 本学創設当時の文部大臣で、本学の設立に尽力した西園寺公望公胤(雅号:陶庵)の愛蔵書680部(8,046冊)。

中井家 絵図・書類 京都の宮大工棟梁中井家旧蔵の御所、二条城、諸寺社等建築関係の図面、古文書、地図など。177冊、2,276枚。

中院文庫 中院規純伯爵の旧蔵書、文書記録を含む典籍1,041冊。通村、通勝の万葉集、古今集等の勅撰和歌集をはじめとし、源氏物語、伊勢物語等自筆の訓注、評釈等の精粹な資料を含む。

平松文庫 公家西洞院時康を遠祖とする平松家伝世の3,100余冊の集書。朝廷の儀式典例、日記に貴重なものが多数。『兵範記』『範國記』『知信記』の3点は重要文化財指定。他に真名字本平家物語を含む。

富士川文庫 明治以前の和漢の医書と江戸中期以後主として幕末期の西洋医学の翻訳書。医学博士、文学博士富士川游が『日本醫學史』の編纂のため収集した蔵書。

宮崎市定 コレクション 宮崎市定名譽教授旧蔵の地理書と古地図。1561年刊行のヴェネチア版プロレミ-地図帳、1550年に木版刷りされたミュンスターの新世界図などを含む。

イスパニア文庫 イスパニア国最高学術研究会議の配慮により、昭和25年同国政府より寄贈された学術図書1,300余冊。

ロールズ・シリーズ 英国中世の公文書、記録類の集成724冊。Rolls Seriesと称されるのは、Master of the Rollsの監修のもとに編纂された。

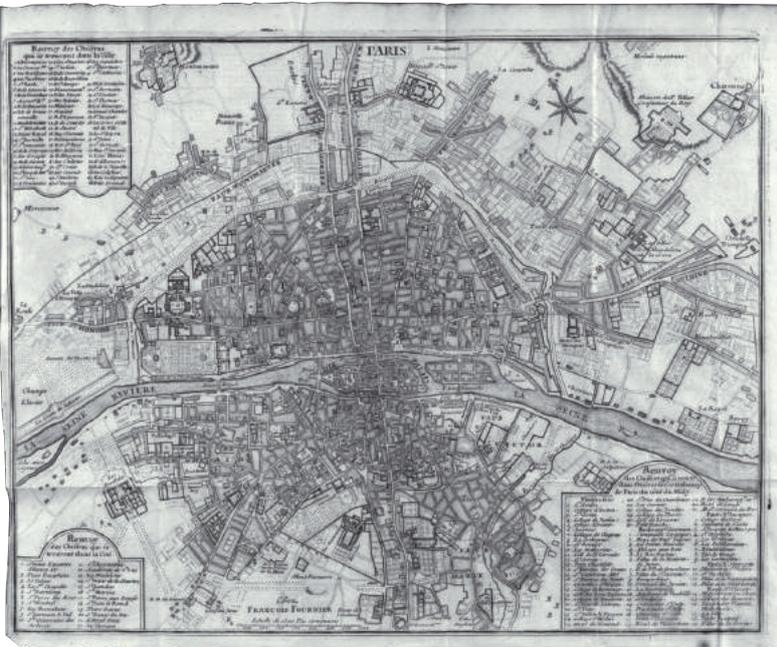
フランス建築・地誌資料コレクション 18世紀-19世紀のパリ市全図複製版や地図帳、パリ市史など、パリ市の歴史的・都市論的研究に必須の文献・資料など。多くの稀本、稀版資料が含まれる。



02



05



08

P15-18の各コレクションの利用については、各図書館/室にお問い合わせください。
電子化された貴重資料は、京大貴重資料デジタルアーカイブでご覧いただけます。

主要コレクション
<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/collections/12502>



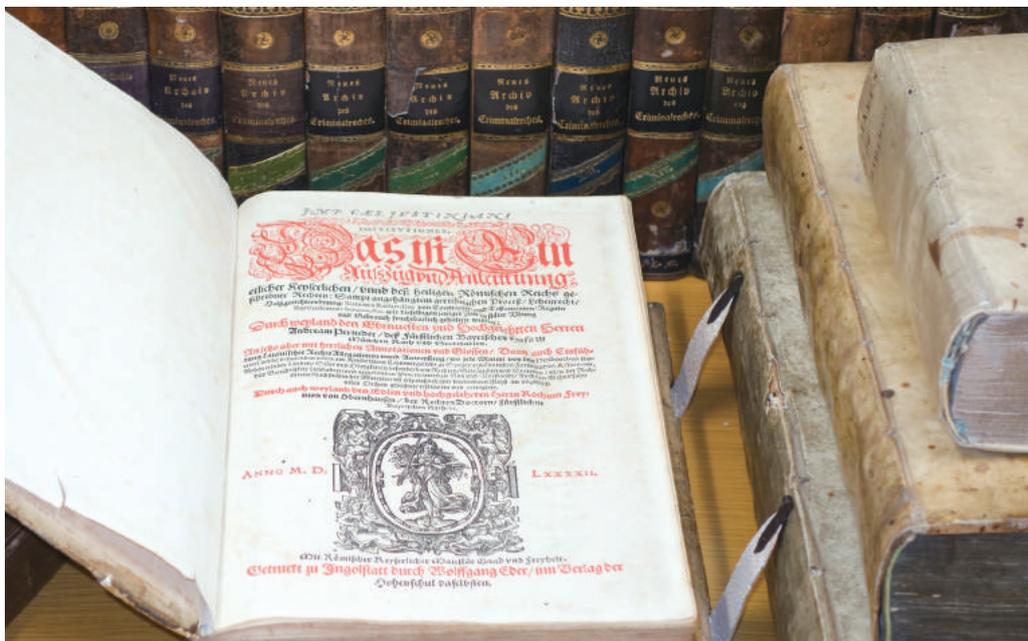
京大貴重資料デジタルアーカイブ
<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/>



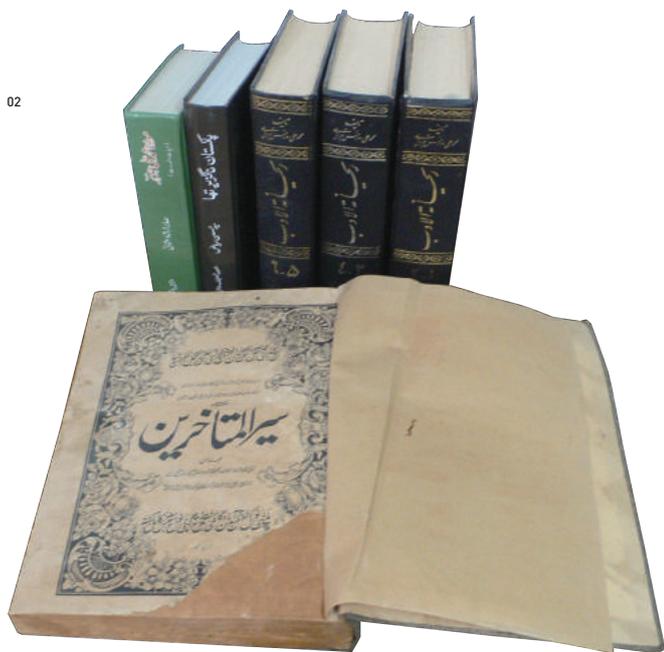
主要 コレクション

Collection

〈 部局図書館・室〉



01



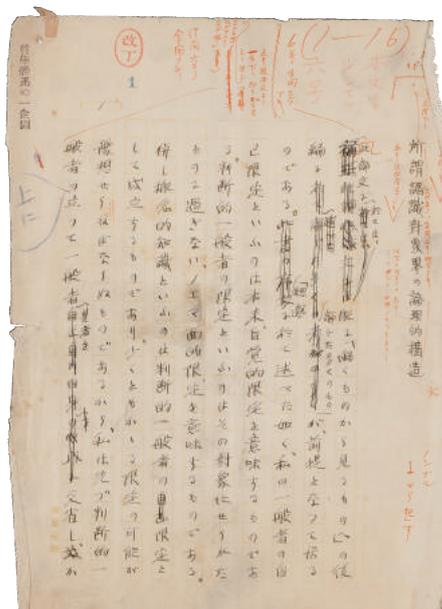
02



03



04



05

01. 法学研究科「イェシェック文庫」/ 02. アジア・アフリカ地域研究研究科「モイーンステューデン・アキール博士所蔵ウルトゥー語文献コレクション」/ 03. 理学研究科「理学部中央図書貴重書・準貴重書コレクション」"Account of voyage of discovery to the west coast of Corea, and the Great Loo-Choo Island" by Basil Hall. 1818 / 04. 東南アジア研究所「オカンプ・コレクション」/ 05. 文学研究科「西田文庫」"所謂認識対象界の論理的構造" / 06. 工学研究科「ジョサイア・コンドル 建築図面」"Elevations of Plan B (250 tsubo)" (欧風住宅) (部分)

文学研究科

池田文庫	京都府与謝郡宮津町の実業家池田孫七氏寄贈の語学・文学・社会学・芸術など広範囲にわたるロシア語文献コレクションである。2,159冊（言語学）。
額原文庫	本学部教授（国語学国文学）であった額原退蔵博士旧蔵の国文学関係のコレクションである。同教授の専門であった俳書の版本をはじめ、写本も数多い。6,040冊（国文学）。
桑原文庫	本学部名誉教授（東洋史学）桑原隲蔵博士旧蔵の東洋史関係のコレクションである。博士の専門が東西交渉史であったことから、洋書も多く含まれている。12,457冊（東洋史学）。
クラーク文庫	本学部教師（英文学）であったEdward B. Clarke氏旧蔵の英文学関係書のコレクションである。5,133冊（英文学）。
西田文庫	本学部名誉教授（哲学）西田幾多郎博士旧蔵の哲学関係図書のコレクションである。1,627冊（哲学）。

教育学研究科

小西文庫	本学第9代目の総長であった小西重直博士の旧蔵書で、1940年代以前のわが国における教育原理に関する貴重な資料が多い。482冊。
高橋文庫	高橋俊傑博士の旧蔵書で、江戸時代末期を中心とする教育思想に関する図書を含み、教育思想史の研究上欠くことのできない収集である。1,364冊。

法学研究科

ハチェック文庫	ドイツの国法学・行政法学者 Julius Hatschek (1872-1926) の旧蔵書。ワイマル憲法下において活躍し、ドイツとイギリスの比較法の専門家としてイギリス公法の研究においても大きな業績を残したハチェックのコレクションであるため、公法学に関する図書が多く、なかには哲学・史学の図書が含まれている。2,113冊。
ターナー文庫	ドイツの民法学者 Friedrich Thamer の旧蔵書。教会法関係の書籍が多く、ドイツ民法典成立以前は、教会法がドイツの家族法の役割を果たしていたため、ドイツ法史研究上学術的価値が極めて高い資料が多数含まれている。2,643冊。
トゥール文庫	ドイツの民法学者 Andreas Von Thur (1864-1925) の旧蔵書。19世紀から20世紀に出版された歴史法学以降の私法関係図書を多く所蔵している。1,933冊。
イエシエック文庫	ドイツのマックス・プランク外国・国際刑事法研究所所長を務めた刑事法学者 Hans-Heinrich Jescheck (1915-2009) の旧蔵書。ドイツなど主要なヨーロッパ諸国の刑事法に関する基礎的資料を、中世から現在に至るまで広くカバーした貴重なもの。とりわけ19世紀の諸外国の立法に関する資料など、国内において多難することが殆ど不可能な文献が相当程度含まれ、まさに稀覯書コレクションというべきものである。572冊。
小早川文庫	京都帝国大学教授で法制史学者の小早川欣吾 (1900-1944) の旧蔵書。日本法制史に関する基礎的な文献のほか、特に江戸時代の古文書・古記録や明治時代の文献が多く含まれる。2,455冊。

経済学研究科

上野文庫	元朝日新聞社主上野精一氏と元社主上野淳一氏の寄贈書で、内外の新聞とジャーナリズム・マスコミ関係の一次コレクション。政治学・経済学・哲学・歴史学に関する貴重な文献も多い。約27,000冊。
河上文庫	京都大学経済学部教授であった河上肇の旧蔵書を、1969年に学部創立50周年を記念して寄贈を受けたもので、図書の他に、講義ノート、原稿が含まれる。約2,700冊。

理学研究科

数学教室貴重書コレクション	16世紀-20世紀の数学関係の洋書(264点)と、江戸時代の和算書、天文学、暦書等(586点)のコレクション。850点。
理学部中央図書室貴重書・準貴重書コレクション	16世紀-20世紀にかけての博物学、地質学、化学、具理学等に関する和洋のコレクション。586冊。



06

工学研究科

重要文化財 ジョサイア・コンドル建築図面	明治期に英国より来日して鹿鳴館やニコライ堂など多くの設計に関わり、日本近代建築の父と呼ばれたジョサイア・コンドル博士の建築図面468枚。建築系図書館所蔵。
--------------------------------	---

吉田南総合図書館

林文庫	1939年10月 第三高等学校 林森太郎教授より寄贈を受けた国文学関係の和書88点。
溝淵文庫	1939年7月 第三高等学校 溝淵進馬教授より寄贈を受けた教育学・哲学関係の和洋図書1,224点。

アジア・アフリカ地域研究研究科

アイユーブ・コレクション	元テンプル大学教授マフムード・アイユーブ博士の個人蔵書。イスラーム学関連図書コレクションで、アラビア語約1,700冊、ヨーロッパ語約1,000冊からなる。
モイヌッディーン・アキール博士所蔵ウルドゥー語文献コレクション	カラチ大元教授モイヌッディーン・アキール博士の旧蔵書で、南アジア・イスラームの歴史・政治・社会・文学・思想・宗教など幅広い書籍を含む。蔵書数2万点を超え、ウルドゥー語コレクションとしては、大英図書館に次いで世界第2の規模。
京都大学土山岳会文庫	京都大学土山岳会・国際登山探検文献センターの旧蔵書。アジア・アフリカ地域を中心とした学術探検登山に関する幅広い資料が含まれている。約4,400冊。
カーク・グリーン・コレクション	カーク・グリーン・コレクションは、オックスフォード大学などで研究を行った第一級のアフリカ研究者カーク・グリーン博士のコレクションの一部。ナイジェリアをはじめとするアフリカの歴史、民族社会、政治、経済などに関する貴重な資料。

人文科学研究所

サン＝シモン、フーリエ文庫	19世紀前半に活躍したフランスの社会主義思想家アンリー・サン＝シモン (1760～1825年) とシャルル・フーリエ (1722～1837年) の著書・パンフレット類・研究書。前者の関係が93部、後者の関係が54部。 故京都大学名誉教授矢野仁一博士が1944年「現代支那」研究班の代表者として蒐集した和漢洋書421部、697冊。1958年1月に寄贈された。
矢野文庫	元大阪朝日新聞社社員村本英秀氏 (後に中田と改姓) より1941年1月に寄贈された漢籍837部、8,484冊。文庫の内容は、中国の伝統的な書籍分類法である四部 (経・史・子・集) 分類のほぼ全てにわたる。
中江文庫	中江丑吉氏の旧蔵書で、歿後中江善後委員会より1944年9月に寄贈された。漢籍355部、6,037冊、社会科学に関する洋書478部728冊、および、1996年に阪谷芳直氏より寄贈された、手稿等61点、書簡245点から成る。

経済研究所

マッケンジー文庫	ライオンネル・マッケンジー ロチェスター大学名誉教授 (1919-2010) の旧蔵書で、数理経済学関係書を主としたコレクション1,495冊。2003年10月に寄贈された。
----------	--

東南アジア地域研究研究所

チャラット・コレクション	タイ政府関係者 Charas Pikul 氏の旧蔵書約9,000冊。うち葬式配付本 (Nagsune Ngan Sop) と呼ばれる重要人物の葬儀に際して刊行される出版物約4,000冊が含まれており、タイ国外で最大規模のコレクションである。
フォロンダ・コレクション	フィリピン史学者 故 Marcelino Foronda 教授の旧蔵書約7,000冊。イロコス地方の歴史・文学・民族誌をはじめ、マルコス政権下の禁書・地下出版物やカトリック各種祈禱書など、フィリピン研究に重要な諸資料が含まれている。
オカンポ・コレクション	フィリピン歴史学者・作家 Ambeth Ocampo 氏旧蔵書約1,000冊。19世紀後半から20世紀初頭フィリピン史関連出版物、カトリック各種祈禱書や議会記録等の政府刊行物が含まれている。
トルキスタン集成CD版 (Turkestanskii sbornik)	19世紀-20世紀初頭にかけてロシア帝国が収集した中央アジア関連の刊行物コレクション全594巻のデジタル複製版。単行本、雑誌論文、新聞記事、統計、地図、図版など1万3千点を越える多様な資料から、当時のロシア帝国の中央アジアへの関心のありようや、今日なお重要な中央アジアに関する基礎情報を知ることができる。オリジナルはウズベキスタン国立ナヴァーイー記念図書館所蔵。
マレー語定期刊行物コレクション	脱植民地化期・建国期の東南アジアにおけるイスラム運動の動き、とりわけ多民族・多宗教状況におけるイスラム的価値の受容・定着・拡大の過程を民衆の視点から理解するための歴史資料として重要な一次資料群。マレー語、アラビア語雑誌10タイトルをマイクロフィルム53リールに収めている。
石井米雄京都大学名誉教授コレクション	1965年から1990年まで京都大学東南アジア研究センター (現東南アジア地域研究所) に奉職された石井米雄京都大学名誉教授 [1929-2010] の旧蔵書およそ1万点余りのコレクションである。タイ「三印法典」[タイ年次法集成] 等東南アジア現地語資料や Bastian, Cabaton, Hallett の原典初版数十点の稀覯本を含む。

生命科学研究科附属放射線生物研究センター

原爆文庫	武部啓名誉教授が幅広く収集され放射線に寄贈された約300冊の原爆に関する資料。京大でも原子爆弾の研究が進められていたことは、2015年6月25日の京都新聞記事で明らかにされた。1995年にアメリカでは原爆50周年に多くの図書が出版されたが、そのほとんどがここに収集されており、貴重な文書を含んでいる。
------	--



2018 (平成30) 年12月発行
編集・発行：京都大学図書館機構
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL.075-753-2691 FAX.075-753-2629
最新の情報はウェブサイトに掲載しています。
<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp>

